



認定 NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク

総会議案書



5月23日開催「地域世話人全体会議」の様様

2021年通常総会

[第16期（NPO法人化以降）：2020年6月1日～2021年5月31日]

2021年7月25日（日）13:30～

Zoom ミーティング / 文京シビックセンター4F 区民会議室 B

目次

まえがき	P. 3
1号議案 2020年度活動報告	P. 5
(1) 2020年度活動報告	P. 5
(2) 2020年度各地域交流会活動報告	P. 7
2号議案 2020年度決算報告	P. 14
収支計算書	P. 14
貸借対照表	P. 15
財産目録（資産）	P. 16
財産目録（負債）	P. 17
監査報告	P. 18
3号議案 2021年度活動方針（案）	P. 19
2021年度活動方針（案）	P. 19
2021年度各地域交流会活動計画	P. 22
4号議案 2021年度予算（案）	（別紙）
5号議案 役員改選（案）	（別紙）

まえがき

代表理事 都筑 建

PV-Net の会員として誇れるものと大事にしてきたもの

太陽という自然のエネルギーを自宅の屋根の上などの身近に持ち、エネルギーを大事に使っていることにちよびり誇りに思え、そして長く使っていてもその想いは消えることはなく、隣の人や家族にも伝えられたらと願い続けている人たちが、たくさん集まり、語り合っているのが PV-Net という集まりです。このことは時代的にも先駆的で、他に類を見ない NPO となっています。

“市民の手にエネルギーを！”という合言葉がよく語られるようになったのは、1993 年に大手電力会社の社長会で、突然、「自然エネルギーの電力を買う」と宣言された頃です。その後の補助金事業の拡大によって、住宅用の用太陽光発電は高額だったにも関わらず、またたく間に国内で普及していきました。その社長会から 10 年の間に太陽光発電を導入した人たちが集まり、2003 年、PV-Net は創立されました。

こういった点で、その後の FIT 制度で野山を無造作に切り開いて建設された「メガソーラー」とは本質的な違いがあります。FIT 制度施行前の経産省の諮問委員会で PV-Net は、過度で不節制な普及策ではなく、省エネを含めた「節度のある FIT 制度に」との意見を発表し、マスコミを通じて広く訴えました。しかし現状は、「市民の手にエネルギーを」ではなく、資本の論理で「地域の宝」が収奪される結果となっています。

逆風に晒らされる FIT 後の自然エネルギー

2018 年 10 月、長野県茅野市茅野市民館で開催された「全国メガソーラー問題シンポジウム」には全国から 600 人を超える人々が集まりました（収容人員の 150%）。FIT 制度施行前のグリーンで未来的な自然エネルギーというイメージとのギャップから、PV であっても「何でもあり」は許されないという視線にさらされるケースが多く出てきています。PV-Net としても、千葉県白井市の住宅街に隣接して設置されたメガソーラーからの反射・散乱光による光害によって、著しく不調に陥っている齊藤さんから相談を受け、千葉地域交流会のメンバーとともに支えてきました。事業者との話し合いが難航し、ここ数年、なかなか解決の糸口を見いだせない状況にありましたが、現状を変えるべく、今年に入り、PV-Net 顧問弁護士の牛島聡美さんへの相談・協力が始まっています。

PV-Net の活動の再評価を

2003 年の創立以来、PV-Net として様々な実践活動、調査活動を行ってきました。そのなかでも最初から一貫して取り組んできたのが、太陽光発電（以下 PV）の自己発電データ収集と相互比較です。気象条件が比較的同一と考えられる会員同士の PV 発電量を比較する「近隣比較」と、予測される発電量から各自のシステムの発電能力の変化を見るための「乖離度比較」です。電力量計やパソコン、検針票などのデータから、毎月の発電量数値をピックアップして、会員専用ページに登録を行うことで自動集計され、グラフ化して相互比較を行う「PV 健康診断システム」です。

このシステムの原型は、黒川浩助・東京農工大学名誉教授を主査とする、産業技術総合研究所のメンバーおよび東電・九電の各研究所の協力を受けて作られたもので、国内でも先駆的な測定評価システムでした。その後、日本気象協会などが PV-Net のシステムを調査・検証の上、NEDO の標準気象データベースの構築へとつなげるなど、長らく、国内の発電予測のスタンダードになっています。初期の開発会社の解散や、東日本大震災でのサーバー故障などで運用・復旧に苦労が続きましたが、現在も一定の運用を続けています。

PV 健康診断は、単に会員の一軒一軒の発電量の収集・検証を行うだけのものではありません。近隣比較という言葉が意味するとおり、気象条件が同一エリア（半径 10km 前後が目安）の地域の会員同士で、発電状況を比較・評価できるわけです。現在は電力の需給安定化を目的に、衛星データなどを活用した大規模で精密化された発電量予測システムも出てきていますが、PV-Net のように会員が地域内で相互に声をかけながら、自分たちの PV システムの評価・維持を続けていることは決して時代遅れでなく、「市民の手にエネルギーを」、あるいは「地域循環共生圏」の観点から見れば、依然として先駆的であると言えるでしょう。発電者に密着し、地域内で相互交流を続けていることは、PV の維持管理だけにとどまらない大きな意義を持っています。後述しますが、総会を機にスタートを切る予定の「PV モール（会員同士で取引・売買が行えるネットショッピングモール）」の取り組みなども深く関わっており、今後も大きな可能性を持っています。

コロナとの戦いが長く続いた後に、これまでの価値観のまま「未来的」な思考で進むとすることは、さすがに限界があります。資本や労働力が国境を活発に超えて移動し、結果として数%の富裕層に富が集中する「グローバル経済の破綻」はより明白になっており、それに対抗する共生、協同思考の世界への期待が否応なく高まるなか、特にプロシューマの役割が鍵となっています。

これから 1 年間、PV-Net も新たな歩みを始めますが、自分たちの大事に培ったものを選び、再発見して、新たな共生の世界の関係構築と継続につなげていこうと思っています。

1 号議案 2020 年度活動報告

「地球全域がコロナ対応に追われ、待ったなしの地球温暖化対策が足踏みしている現状を直視し、市民であり消費者であり、再エネ（太陽光発電）所長としての PV プロシューマの役割を自覚しつつ、持続可能な社会づくりを行っていく」という方針を掲げての 2020 年度でしたが、コロナ禍が長期化し、先が見通せないなかでの活動は困難を極めました。しかし各地域の実践と試行錯誤によって、新たな取り組みの萌芽が生まれつつあります。

（1）重点活動

1. 地域交流会活動の充実と相互連携

- ① 地域会員との連携や交流の充実 ② 地方自治体や関係団体との連携

これまでの地域交流会活動は、それぞれの地域性を活かした取り組みを、地元の会員向けに行うというものでした。しかしコロナ禍をきっかけに、IT 化・リモート化が推進されたことで、セミナー・勉強会に遠方から参加したり、地域相互でノウハウを共有する動きが始まっています。**理事会についても、短時間・高頻度で開催する方針へと切り替え、また理事以外のオブザーバー参加者を増やすことで、活動内容の広く深い浸透を目指してきました。**その一方で企業・団体との連携・協働においては、従来は膝を突き合わせて課題解決のために意見交換しながら進めてきましたが、その機会がなくなってしまったことで、思ったような成果が挙げられず、**リモートワーク下で関係性を築くことの難しさを実感しました。**

2. グリーンプロシューマの特色を活かした再エネ事業と普及活動の定着

- ① グリーンコンシューマ運動に学ぶ ② グリーン電力証書事業の再建と社会化
③ PV-Net の強みを活かしたマイクロインバータ、蓄電池、EV 普及に向けた事業化
④ 住宅用 PV メンテナンスの平準化と高度化 ⑤ プロシューマ利点を活かした調査活動の取り組み

ここ数年、PV-Net ではエネルギーの生産者であり消費者をプロシューマと呼び、その心構えについて、共有・浸透を図ってきました。真のプロシューマ団体となるため、主体性を持った会員参加の取り組みを行ってきました。例えば ② では、環境省「ブロックチェーン技術を活用した再エネ CO₂ 排出削減価値創出モデル事業」において、一昨年度より実証参加している約 40 件のお宅から作られた CO₂ 削減価値について、リアルタイムでの取引実験を実施。現行のグリーン電力証書制度の課題となっている取引の「簡素化」「自動化」「即時化」を実現させるための、重要な一歩となりました。

③④ は自主事業強化のため、マイクロインバータなどの新たな商材の取り扱いや、メンテナンスの高度化を掲げましたが、これらは単に収益増を目指すものではなく、会員や PV 設置（希望）者の課題を解決する製品や、新たな気づきを促すサービスを提供することを目的としています。**しかしながら、事業として十分な成果を上げることはできませんでした。**

⑤ については、企業や団体が、太陽光発電の運用実態や設置者のニーズを捉えようとする際、PV-Net 会員への期待は高く、**2020 年度は資源総合システム、太陽光発電技術研究組合（PVTEC）、新エネルギー O&M 協議会などからアンケート要請がありました。**こうした調査協力に対して、継続的に展開・関与していけるかが今後の課題です。

3. 地産地消で人間的な PV 普及および災害対策としての再エネ活用の制度化、自己対応の啓発を自治体や各種団体とともに進める

前年度、静岡県掛川市で行った太陽光発電普及のプラン作りがきっかけとなり、**同市が設立した自治体新電力会社「かけがわ報徳パワー」に出資を行いました。**同社は地域電力事業を通じて、市民の生活支援や地域課題を解決することを目指しており、PV-Net としても、地域に寄与する企画・提案をしていきたいと考えます。

2019 年 9 月の台風 15 号の際に救援活動として訪れた千葉県南房総市の大井地区では、地域の助け合いからなる自主防災組織「かわせみ」を組織し、災害による長期停電や孤立化を想定した備品整備と訓練を実施しています。**PV-Net では昨夏、静岡地域交流会が企画・設計した蓄電型の太陽光発電システムを納入したほか、防災訓練に参加して電源確保に関するアドバイスをを行いました。今後も同地区との交流を続けていきます。**

東日本大震災以降、PV-Net と関係の深い岩手県ですが、再生可能エネルギーをとりまく現状は、県外資本による事業者が多くを占め、地産地消の事例はごくわずかしかないという課題を抱えています。岩手県立大学では、「再生可能エネルギーの地域貢献促進に関する研究」を行っており、その一環として **3 月に開催された県民、企業、自治体職員対象のワークショップにおいて、「地域主導で達成するカーボンニュートラル」をテーマにオンライン講演を行いました。**

4. 気候変動問題への対処

2020 年 12 月 10 日、環境 NGO/NPO や市民団体、若者グループらが呼びかけ団体となり、パリ協定で掲げる 1.5 度目標と整合した温室効果ガス排出削減目標の設定と、2021 年に予定されるエネルギー基本計画の見直しを政府に求める「あと 4 年、未来を守るのは今」キャンペーンがスタートし、PV-Net も呼びかけ団体として参加しました。5 月末までに集まった署名数は 274,830 筆。**PV-Net でも多くの会員の皆さまにご協力いただき、把握可能な数として 1,524 筆を集めました。なかでも静岡県からの署名はその半数を超える 895 筆を集め、コロナ禍で活動に制約があったにも関わらず、地域の結束力が発揮されました。**署名活動は一旦終了となりますが、引き続き、連携団体とともに次のアクションを計画しています。

また東京地域交流会では、「大転換は地域から」の方針のもと、三鷹・武蔵野の両市議会に対し、政府への意見表明や市としての温暖化対策強化を求める陳情を 2019 年より提出してきました。そして **2021 年 3 月 29 日の三鷹市議会本会議において、賛成多数で採択されました。なかでも、温室効果ガス削減目標 2030 年 50%以上（2010 年比）を国に求める地方議会の意思表示は、全国初のケースとなりました。**地域が一体となれば、気候危機の認知や行動を、短時間で飛躍的に高められることを、この取り組みを通じて確信しました。

5. 財政の自立化と事務局運営の効率化

前年度予算では財政の自立化を目指し、自主事業の拡大を掲げていましたが、前述のとおり新型コロナの影響を大きく受けたことで、財政的には厳しい結果となりました。

こうしたコロナの流行等に端を発する経営環境の急激な変化に対応するためには、経営状況を早く正確に把握するためのデータの可視化に難を抱えていました。そこで新たに**クラウド型の会計ソフトを導入したほか、来期からは業務効率化と本来業務への集中を目的に、経理業務のアウトソーシングを活用します。**

(3) 2020 年度 各地域交流会活動報告

新型コロナによる活動制限の影響を最も受けたのが地域交流会の活動でした。多くの人が集まることを前提としたイベント出展やセミナー開催は、ごく一部の例外を除いて中止となりました。非対面・非接触で活動を行おうとすれば、オンラインの活用は避けては通れず、試行錯誤を重ねながら地域会員との関係構築に努めている事例が数多く見られました。

東北 6 県地域交流会

東北 6 県地域交流会という名前にふさわしい交流がなかった。コロナ禍で再認識した広い土地が広がる「東北 6 県」。つながらずには、リモート活用にヒントを得て、メーリングリスト (ML)、Facebook、Zoom などのオンラインを一部開始した。既存の会員の状況を把握して交流につなげていき、新規会員の入会が増えるような取り組みと合わせて実施したい。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	・ 東北 6 県全体リモート 交流の推進 ・ 各県地域交流会の自立	交流会の名に準じたつながり づくりから、情報ネットワーク が地域づくりに貢献すること	6 県ネット ワーク別交 流会を 1 つ 以上	6 県ネット ワークハ の ML、Zoom の活用提案	各県交流会 への Facebook 活用提案	改善 体制づくり	改善 体制づくり	Zoom テスト ML 作成	△	Zoom 会議のテスト実施を行っ た。ML 作成・運用方法を模索中
2	東北 6 県地域交流会 活動支援型発電所建設	活動資金、自主財源づくり ・ 11kW 発電所 1 基稼働 ・ ソーラーシェアリングを計画 ・ 「自立共生塾」立ち上げ	財源、拠 点を自立 する	新田パワ ー 1 号基 (7 月稼働)	地球の中心 1 号基 農業委員 資金計画 構想設計		1 基稼働	○	新田パワー 1 号基：9 月稼働 地球の中心 1 号基：保留中	
3	PV-Net 発プロジェクトの 横展開	各プロジェクトやイベントなどへ の参加。実働で結果を出す	参加 1 名 以上、実働 1 件以上	通年				2 件	○	・ あと 4 年キャンペーン署名 ・ 自家消費計測器の設置
4	活動全体を通じて 新規会員の獲得声かけ	自立した会員を増やすことで 全体の底上げを図る	新規会員 5 名/年 の獲得	通年				0 名	×	既存会員の状況確認を優先した

茨城地域交流会

会への寄付、「あと 4 年」署名、地域代表者会議派遣については、会員に連絡できたが、理事会等の内容を把握できず
会員に報告できなかった。また世話人が不確定の状況で、組織の力が全く発揮できず、交流会・セミナーは取り組みなかった。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	情報提供	茨城会員との交流	—	通年				▲	▲	理事会の内容の把握不足
2	県内会員の交流会	茨城会員との交流	—		9 月頃			×	▲	世話人の不確定
3	太陽光発電活用の セミナー	茨城会員との交流	—				5 月頃	×	▲	世話人の不確定

群馬地域交流会

2020 年度の活動は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、すべてを停止せざるを得ませんでした。感染リスクを負わない形での会員間交流を模索しようとしたのですが、実現には至りませんでした。

埼玉地域交流会

2019 年度は全体としてまずまずの活動ができたと考えます。会員全体の懸念事項である卒 FIT の検討にあたり、その目安となるシステムの健康度の確認方法の説明と調査を実施しました。またフォーラム相談会を通じて、不安材料の低減を図りました。イベント参加では、子どもたちにエネルギーを生み出す体験を通じて、省エネの大切さを感じてもらうことができました。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題の最新動向。2019 年以降の会員の情報交換共有	年 1 回 開催				Zoom で 1 回開催 実施	1 回	○	コロナを考慮し、ネット利用に対するアンケートを実施し、Zoom での開催を行った
2	見学会 「見学場所を計画中」	太陽光発電などを含めたエネルギー効率の啓発	年 1 回 以上					0 回	×	コロナ感染拡大のため計画できず
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	年数ヵ所	年数ヵ所を予定				9月 1 回	○	コロナ環境下での実施となり、回数的には限定的だった
4	自治体等のイベント参加	県・市町村・環境団体主催のイベント参加による PV-Net 活動の周知、会員拡大	5 イベント に参加	通年				2 回	○	1月：SDG's フォーラム 5月：エコライフフェア熊谷 コロナで中止が相次いだため、参加回数減
5	児童・園児・父母対象の 環境学習開催	・ 自然エネルギーの普及啓発 ・ 将来への投資	県内 数ヵ所	随時				3 件	○	7月ほしのみや幼稚園（七夕） 8月桶川東放課後児童クラブ 2月大牧会館
6	・ 市民発電所の維持管理 ・ スイッチング推進 ・ 発電量の計測および健康診断による発電量チェック ・ 新規発電所の設置	・ PV 設備のメンテナンス ・ パワーシフトの推進 ・ PV の普及・啓発	新設 1 ヵ所	随時				新設 0 件	△	2 件の発電所の健康診断、障害対応を実施した
7	世話人会の開催	地域交流会の運営 (当面 Zoom で開催)	定例開催 (第一土曜)	通年				12 回	○	リアル開催：3 回 Zoom 開催：9 回
8	NEWS（さいたま通信）刊行継続とホームページの運用	・ 発電量の近隣比較の広報と PV 健康診断への入力促進 ・ イベント等を地域会員に知らせ、参加につなげる	2ヵ月毎	通年				6 回発行	○	

【年間評価】◎：目標を達成（達成率 120%以上） ○：目標を達成（達成率 100%以上） △：目標未達（達成に向け改善可） ▲：目標未達（改善不可） ×：実施されず

千葉地域交流会

新型コロナウイルス感染拡大の影響でリアルな世話人会が開催できなかった。また Zoom 環境も整っていないため、オンラインでの世話人会も開催できなかった。また世話人 2 名が退会した。太陽光発電量分析委託事業収入は増収となった。リネットちばへの参加は継続できている。イベント出展はリアルがなくなり、エコメッセちばのオンライン出展（動画配信）のみだった。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	・ 情報交換／共有 ・ Zoom 会議の導入	8回 開催／年	通年				0回	×	各世話人の Zoom 環境の整備 が先決
2	自然エネルギーを広める ネットワークちば定例会	・ 定例会へ参加 ・ 情報交換／共有 ・ 他団体との連携	12回参加 イベント 共催	通年				12回	◎	オンライン勉強会で講師参加。テ ーマは「卒 FIT 後の住宅用太陽 光発電」
3	市民エネルギーちば 株式会社から業務委託	・ ソーラーシェアリング発電所 の発電量分析／報告 ・ 知見を得る	13 発電 所分析	通年				14 設備	◎	
4	イベント出展	・ PV-Net の PR ・ PV／卒 FIT 無料相談 ・ 最新情報の発信	2 回出展 ／年		9月		5月	1回	△	エコメッセちばのオンライン出展 (動画配信)
5	卒 FIT セミナー開催	・ 卒 FIT の広報 ・ 卒 FIT 処方箋の紹介	2 回開催	通年				0回	×	

東京地域交流会

啓発は 7 月頃～オンラインに切り替え、都外含め約 400 人が参加。三鷹市議会は脱炭素の風が吹き 18:9 の大差で陳情採択。しかし三鷹だけではダメ。「あと 4 年」も課題。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	温暖化啓発	気候危機の理解者を増やす ➢ 政策提言賛同者	参加 300 人	・ 学習会、上映会 & 温暖化講座、講演会 (PV-Net 主催、地域 NPO、パル連携) ・ 「SFN 気候変動と日本」上映 & 講座 (オンライン 含む) / 11月～「あと 4 年」キャンペーン				SFN & 学習 会 23 回・参 加 389 人。 他 3 回	○	上映会 & 入門講座：パル東京、グ リーンむさしの主催でリアルとオンラインと。 PV-Net 主催は Facebook 広告等で 集客
2	再エネ普及	ソーラー設置、再エネ新電 力ハススイッチ	10 人	集客：従来ルート + SNS、連携団体 設置相談 2 件＝進まず。杉並のパン原稿				設置 0 人 スイッチ 0 人	×	コロナでソーラー & 蓄電池学習会が リアルではできず。オンライン＝全国 で紹介に向け施工業者団体と提携
3	ペラダ発電工作教室	再エネとの身近な接点を提 供。活動資金源	2カ所 工作 15 人 見学 20 人	地域の再エネ NPO での企画が中心。PV-Net 主催も検討。12月にむ～ソーラー主催で実施				開催 1 回 参加 5 名	▲	コロナ禍で企画できず。内容、体 制見直しが必要
4	政策提言	350、FFF と連携 ➢ 武蔵野・三鷹以外の都内 へ拡大。SNS 活用。生 協、RE100 企業への働き かけ	石炭火力 廃止請願 採択	2021 年 3 月市議会、6 月都議会 みたか等では 立ち上がりず 「あと 4 年」ス タート。パル 参加 市議会陳情 みたか○ むさしの×				三鷹市議会「国 への意見」「市 の対策陳情」2 本○。他地域 拡大はできず	○	「あと 4 年」は若者主体、ネット駆使、活 動家中心で中高年中心の地域再エネ 団体とスタイル合わず。地域志向弱い。 「ふつうの市民」へのリーチ→啓発→地 域でアクション、が課題。
5	イベント出展	温暖化・再エネ啓発 ➢ 他の企画へ誘導	コンタクト 500 人	再エネ NPO が活動する地域中心＝武蔵野、三 鷹、調布、小平、日野、杉並 ・ みたか RE100 イルミ (リアル)、カフェ・マルシ エ交流会 (オンライン) 等に参加				新規コンタ クトは 20 人？くらい	△	主催する地域 NPO に新規コンタ クトしたが、フォローアップの目標 がない。戦略が共有できていない

【年間評価】◎：目標を達成（達成率 120%以上） ○：目標を達成（達成率 100%以上） △：目標未達（達成に向け改善可） ▲：目標未達（改善不可） ×：実施されず

神奈川地域交流会

コロナ禍においても以下の活動を実施した。

- ・ ニュースレター「PV かながわ」を毎月発行しメールにて配信。2021 年 6 月で 73 号を発行
- ・ YES（ヨコハマ・エコ・スクール）と共同で青少年への環境教育を実施。ソーラーバツタを活用
- ・ ワークショップ「出前発電所を作ろう！」を年数回開催、参加者は可搬型太陽光発電装置を自作し、日常的メンテナンスも可能とする
- ・ 会員への情報共有と神奈川の活動を地域 HP（<http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/>）で紹介

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、 状況)	実施スケジュール				実績 (数値、 状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム神奈川は 開催できず	—	年 1 回					—	—	オンラインでの開催も検討したが、 会員のネット化が進まない現状で は開催が不可能であった
2	ニュースレター「PV かなが わ」を毎月発行し、メール にて配信	タイムリーな話題や毎月の発 電量の近隣比較などを会員へ 提供し、情報の共有を図る	12 回 /年	通年				月 1 回 発行	◎	毎月執筆者を決めて発行するの は負担だが、継続が大切。読者 からの反響も出ている
3	ワークショップ「出前発電 所を作ろう！」の開催	会員、一般の希望者を 募集して開催	年数回	7/5 (第 31 回)	9/13 (第 32 回)	11/22 (川崎地球 温暖化防止 活動推進セ ンター主催)		3 回	◎	新型コロナの影響で会場定員を 半数に制限して開催した
4	地域のイベントに参加	ソーラーバツタを活用し、 青少年への環境教育を 目的に出展	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR 保土ヶ谷駅展示スペース出展 (まなぶん祭り企画、2/4～18) ・ 里山ガーデンフェスタ2021出展 (4/24) 				—	△	新型コロナウイルス感染拡大のため、ほとんどのイベントは中止
5	出前授業など環境教室 を実施	YES（ヨコハマ・エコ・スク ール）と共同で青少年への環 境教育を実施	—	ソーラーバツタワークショップ（東戸塚イオンモ ール、12/6）				—	△	新型コロナウイルス感染拡大のため、ほとんどの環境教室は中止
6	地域ホームページの運用 http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/	会員間の情報共有と PV- Net 神奈川の活動を紹介	随時	通年				随時 更新	○	コメントが少なく、情報が一方通 行の感がある
7	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地 域交流会活動の企画、計 画の立案、実施	毎月 開催	通年				月 1 回 オンライン 開催	○	オンラインでも出席者が少ないの が悩み

山梨地域交流会

2020 年度は、コロナ禍の影響で活動がさらに縮小しましたが、ヴァンフォーレ甲府のホーム戦での PV-Green の活用は継続してできました。

No.	2020 年度の 地域での活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	イベントの開催（ライトダ ウンやまなし八代会場）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民立共同発電所を 活用してイベントを開催 ・ PV-Green の利用普及 	年 1 回の ライトダウ ン開催		11/7				△	イベントの開催はできなかったが、 消灯呼びかけなどを行った
2	PV-Green を活用したサッカ ー12 ヴァンフォーレ甲府のホ ームゲーム開催をはじめとする PV-Green の普及活動	一般県民に対し、PV や PV-Green のさらなる普及 を図る活動の展開	年 1 回 以上		10/14				○	NPO 法人みどりの学校の協力のもと、 10/14 ヴァンフォーレ甲府ホーム戦にて 2,400kWh の PV グリーンが活用が実 現し、1.1 トンの CO ₂ 削減につながった

【年間評価】◎：目標を達成（達成率 120%以上） ○：目標を達成（達成率 100%以上） △：目標未達（達成に向け改善可） ▲：目標未達（改善不可） ×：実施されず

3	「広がれ！小瀬エコスタジアム実行委員会」に協力し、小瀬エコパス担当	子どもをはじめとする市民に太陽光発電の啓発活動の展開	年1回	新型コロナウイルス感染防止のため行なわれなかった				×	
4	役員会の開催	活動の展開	—	9/30				△	小規模な打ち合わせのみ
5	・ 会員の拡大 ・ 学習会の開催	PVのさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて					△	・ PVグリーンについては啓発できた ・ 山梨県内では、大規模太陽光発電の影響により太陽光発電設備についての誤解が生まれているので、その解消のために様々な場で発信している

静岡地域交流会

代表交代があり新体制での年でしたが、オンラインの活用等が十分に進まず、地域としての活動はストップしてしまいました。

No.	2020年度の地域での活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間評価	活動によってあげた成果や目標に対する評価、課題、今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年1回)	・ 新たな地域会員の獲得による会の活性化 ・ 掛川市におけるグリーンファイナンスの取り組み	会員増10名					—	▲	なし
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施1回					—	▲	なし
3	行政・自治体活動 社会活動への参画	・ 活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・ 関連周辺視野の拡大	参画6回					—	▲	なし
4	市民共同発電所 運営管理、建設	・ 会の活動費の確保 ・ 管理・設備保守、看板付け替えなど	—	2回	2回		1回	5回	○	なし
5	保守メンテナンスを通じた 会員へのサービス提供	・ 地域会員の結束強化 ・ 会員の保守意識の向上 ・ 保守技術の向上 ・ マイクロインバーターおよびバッテリーの普及	—					—	▲	なし
6	世話人会の開催	・ 地域の結束強化、地域活動の活性化 ・ 世話人18名体制拡充 ・ 東・中・西での開催	開催9回				5/6 Zoom	1回	▲	Zoomの活用による開催

中部地域交流会

豊田市で始まった三河の山里コミュニティパワー（MY パワー）が進める 4 事業「地域で循環するエネルギー」「地域経済の循環」「利益を地域のために使う仕組みの創造」「地域の自立・自治」との連携強化は、依然として模索段階。市民共同発電所建設も具体化できませんでした。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	世話人会の開催	地域会員の 結束強化に努める	毎月開催	2回	3回	1回	3回	9回	○	・ 蓄電池、電力市場化等情 報交換に努めた ・ 具体的な活動につなげること ができなかった
2	市民共同発電所 建設の推進・検討	市民共同発電建設につい て、会員と名古屋市の人々 との間で議論を始める	—				共同発電 所の議論 が始まる		△	会員個々の活動を共有しようと 世話人会で議論を深めました
3	MY パワーとの協力検討	・ 新電力との連携による 組織の活性化 ・ 会員拡大	—						×	MY パワー設立より 1 年半が経過 だが連携は模索段階

京都地域交流会

京都の活動を関西に広げたいが大きな盛り上がりにはならなかった。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	参画人員を増やすため、 京都だけから関西（滋 賀・京都・大阪・奈良）へ と地域を広げる	地域を広げ、グループ LINE も増やし、輪を大きくする	イベント出 席者常時 30 名	通年取組時				—	△	4 府県ともほぼ無反応。参加者を 増やすのに工夫がいる。
2	勉強会開催	会員との情報交換・交流の 場を提供する 【テーマ案】 温暖化、蓄電池、マイクロソー ー、ブロックチェーン・デジタル化	4 回 /年		9/12			1 回	△	メーカー（ソーラーエッジ社）に依 頼して、会場およびオンライン両形 式で実行。それなりにいい経験が できた
3	4 年目、9 年目 点検の事業化	会運営ための収益化	2 件 /年					—	×	本件、事業としての自信が持てな い。相談に乗るといふ形に変更
4	発電データのデジタル化	電力シェアリング等の発電デ ータのデジタル化への参加。 売買市場への参入を探る	—					—	△	1 件のみで終了した。工事内容の 把握およびその業者への説明に手 間取った

兵庫地域交流会

兵庫県民を対象に、「持続可能な地域社会の実現」をテーマとしたセミナー、フォーラムを開催し、再生可能エネルギーの普及を支える社会づくりにつながるような情報を提供できた。また、小水力発電によるクリーンな電力が利用されることで、都市近郊における低炭素地域づくりに貢献し、地域資源の有効活用を目指した活動ができた。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	1) 県民向けセミナー、 フォーラムを開催 2) 環境イベントへの出展	再生可能エネルギーの普及	参加者 80名 以上		セミナー 9/13	フォーラム 12/6	ひょうごエコ フェスティバル WEB 開 催に出展	参加者 セミナー56名 フォーラム65名	◎	新型コロナウイルス感染拡大の状況にあり、セミナー、フォーラムでの Zoom 活用、WEB 上での活動紹介動画公開を実施
2	神戸市灘区水車新田に おける小水力発電設置	自ら再生可能エネルギーの 創エネを実践する	事業化	通年				2021年3 月18日系 統連系開始	○	国、県、市の関連許可機関との 困難な協議をクリアし、許認 可取得を達成
3	水車新田小水力発電 設備活用プログラム作成	地域内での 低炭素地域づくり	—	通年				植生調査 3回実施	◎	小水力発電設備の配管が通過する山 林を里山林として維持・管理し、学びの 場、憩いの場として有効活用する方法に ついての検討を開始
4	太陽光発電の発電に 関する情報提供	地域会員の会員 満足度アップ	メール、 FB での 情報提供	通年				—	○	・ 共同ソーラー発電所発電の 状況報告 ・ Facebook での活動報告
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月 開催	通年				毎月開催	◎	世話人の積極的な参画により活 動の企画、推進がスムーズに実施 できた

宮崎地域交流会

コロナの蔓延により対面での活動ができず、HP による広報を中心に行った。

No.	2020 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール				実績 (数値、状況)	年間 評価	活動によってあげた成果や 目標に対する評価、課題、 今後の改善点について
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月			
1	セミナーの開催 (年4回)	家庭でできる O&M の方法につ いて、講習会の開催や不具合案 件の対応や、災害対応等諸問題 に対応する	4回	通年				4	○	会員からパソコン不具合の相談が あり、電気工事士資格を持つ役 員が交換を行い対応した
2	世話人会の開催	—	2回	通年				2	○	

2号議案 2020年度決算報告

収 支 計 算 書

(自) 令和2年6月1日 (至) 令和3年5月31日

科 目	実績額 (a)	前年度 実績額 (b)	差異 (b)-(a)	備考
I 経常収入の部				
1 会費	2,988,000	3,150,000	▲ 162,000	
2 寄付金	2,155,001	1,450,473	704,528	
3 自主事業				
① PV-Green	1,713,725	2,238,495	▲ 524,770	
② 市民ファンド事業				
市民ファンドサポートセンター	392,000	420,000	▲ 28,000	静岡、野田村、香川
市民発電所運営	3,312,981	3,657,103	▲ 344,122	静岡、小諸、でんきの森
③ メンテナンス・工事	2,888,859	6,409,855	▲ 3,520,996	
⑤ 再エネ機器販売	1,109,966		1,109,966	マイクロインバータ
⑥ 委託事業	5,296,000	18,556,693	▲ 13,260,693	電力シェアリング(環境省)
4 助成金	926,000	600,000	326,000	テレワーク助成金
5 その他収益				
① 普及啓発	1,672,258	524,638	1,147,620	講師料、地域交流会ほか
② 雑収入	3,333,086	38,357	3,294,729	コロナ関連補助金ほか
経常収入合計(A)	25,787,876	37,045,614	▲ 11,257,738	
II 経常支出の部				
1 事業費				
① 人件費(給与手当)	5,189,748	6,314,210	▲ 1,124,462	
人件費(有償ボランティア費)	504,310	447,078	57,232	
法定福利費	920,166	1,091,246	▲ 171,080	
② 間接経費(事務所費)	4,570,538	2,935,238	1,635,300	
③ 直接経費				
PV-Green	2,490,278	3,123,429	▲ 633,151	
市民ファンド事業	701,648	1,547,168	▲ 845,520	静岡、野田村、小諸、でんきの森、サポート事業
メンテナンス・工事	594,037	5,892,842	▲ 5,298,805	
再エネ機器販売	909,384			マイクロインバータ
委託事業	795,414	1,660,730	▲ 865,316	電力シェアリング
普及啓発費	388,028	2,003,735	▲ 1,615,707	普及広報部、普及啓発事業、商品販売費等
地域活動費	159,539	607,162	▲ 447,623	地域交流会費用、組織部活動
助成金事業	0	33,665	▲ 33,665	
相談室費	0	13,640	▲ 13,640	相談室交通費
減価償却	487,408	623,137	▲ 135,729	発電設備等
事業費合計	17,710,498	26,293,280	▲ 8,582,782	
2 管理費				
人件費(給与手当)	2,224,178	2,706,090	▲ 481,912	
人件費(有償ボランティア費)	216,134	191,606	24,528	
法定福利費	394,358	467,677	▲ 73,319	
福利厚生費	15,138	192,373	▲ 177,235	
旅費交通費	993	29,415	▲ 28,422	
通信費	93,743	96,106	▲ 2,363	通信費、クラウド使用料
広告宣伝費	60,000	0	60,000	新ウェブサイト
消耗品費等	377,128	52,199	324,929	消耗品費、事務用品費、修繕費、備品印刷費、印刷費
会議費	227,321	330,544	▲ 103,223	総会、理事会費用
支払手数料	145,611	174,865	▲ 29,254	顧問弁護士、顧問税理士料
地代家賃・光熱費	537,208	539,497	▲ 2,289	
リース料	177,584	212,084	▲ 34,500	複合機リース料、電話機
租税公課費	425,745	53,475	372,270	都民税等
減価償却	208,890	267,059	▲ 58,169	
保険料	30,767	50,598	▲ 19,831	
雑費・諸会費	8,580	49,727	▲ 41,147	
管理費合計	5,143,378	5,413,315	▲ 269,937	
当期支出合計(B)	22,853,876	31,706,595	▲ 8,852,719	
III 営業外損益の部				
受取利息ほか	50,079			
支払利息ほか	136,157			
経常外収益合計(C)	▲ 86,078			
IV 特別損失の部				
固定資産除去損	799,345			
経常外支出合計(D)	799,345			
期首棚卸高	337,890	208,060	129,830	
期末棚卸高	161,940	337,890	▲ 175,950	
当期売上原価(E)	▲ 175,950	129,830		
当期収支差額(A)-(B)+(C)-(D)+(E)	1,872,827	5,468,849	▲ 3,596,222	

貸借対照表

令和3年5月31日現在

資 産 の 部		金額 (単位: 円)	負 債 の 部		金額 (単位: 円)
I 流動資産			I 流動負債		
現金・預金	10,363,319		短期借入金	8,010,000	
棚卸資産	161,940		未払費用	252,471	
前払費用	161,141		前受金	477,000	
未収入金	2,293,544		仮受金	270,302	
立替金	200,000		預り金	474,022	
流動資産合計		13,179,944	証書預り金	5,153,062	
			基金預り金	2,699,710	
II 固定資産			流動負債合計		17,336,567
有形固定資産	5,124,593		II 固定負債		
無形固定資産	27,010		長期借入金	1,160,000	
投資等その他の資産	1,146,678		固定負債合計		1,160,000
固定資産合計		6,298,281	負債合計		18,496,567
			正味財産の部		金額 (単位: 円)
			前期繰越正味財産	△ 890,969	
			当期正味財産増加額	1,872,627	
			正味財産合計		981,658
資産合計		19,478,225	負債及び正味財産合計		19,478,225

会計財産目録
令和3年5月31日現在

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金	事務局	50,903
小口現金	茨城地域交流会	50,779
	栃木地域交流会	5,791
	群馬地域交流会	49,975
	埼玉地域交流会	324,382
	千葉地域交流会	154,572
	東京地域交流会	75,929
	神奈川地域交流会	0
	山梨地域交流会	141,484
	静岡地域交流会	4,381
	中部地域交流会	7,418
	関西地域交流会	0
	宮崎地域交流会	108,094
	九州地域交流会	127,057
	佐賀地域交流会	32,767
	富山地域交流会	150,233
	山口地域交流会	0
	京都地域交流会	199,409
	小諸地域交流会	30,748
	兵庫地域交流会	0
	東北地域交流会	33,626
		1,496,645
普通預金	三菱東京UFJ銀行 神保町支店 No. 2368131	472,805
	三菱東京UFJ銀行 神保町支店 No. 2417857	3,002,288
	三菱東京UFJ銀行 神保町支店 No. 2417860	433,103
	三菱東京UFJ銀行 神保町支店 No. 0916079	17,296
	郵便貯金 振替口座 00190-7-758332	3,436
	楽天銀行 ロック支店 No. 7015479	67,396
	郵便貯金 普通口座 10130-79780731	1,064,966
	郵便貯金 普通口座 10140-37067691	3,754,481
		8,815,771
棚卸資産		
(書籍)	太陽光発電の「FIT」入門 @1500×66冊	99,000
(商品)	エムパワード製 ソーラーランタン・エマージ @1800×12,	21,600
(商品)	エムパワード製 ランタン・アウトドア @2160×12冊	25,920
(商品)	携帯型ソーラーパネル SunPad10 @5,140×3冊	15,420
		161,940
前払費用		
(家賃)	湯島ビルディング 湯島事務所 家賃・倉庫料	145,301
他	インターネット利用料等	15,840
		161,141
未収入金	売電料(4月分 静岡市民)	93,544
	ラウル(株)	2,200,000
		2,293,544
立替金	給料前払い	200,000
		200,000
	流動資産合計	13,179,944
2. 固定資産		
有形固定資産		
工具器具	輪転機・電話設備一式等	3
機械装置(静岡市民共同発電所)		1,484,632
機械装置(小諸市民共同発電所)		1,284,291
機械装置(ほしのみや保育園)		824,210
機械装置(でんきの森)		1,084,652
工具・器具(バイパスダイオード・パワーコンディショナ)		446,805
		5,124,593
無形固定資産	電話加入権	27,010
		27,010
3. 投資等		
出資金	未来バンク事業組合	139,000
出資金	合同会社 野田村だらすこ市民共同発電所	50,000
出資金	恵那山おひさま発電所・静岡市民共同発電所 @30,000	30,000
出資金	川根スカイエナジー合同会社・合同会社うつくしま @50,000	100,000
出資金	かけがわ報徳パワー(株)	500,000
		819,000
差入保証金	湯島ビル 本社事務所保証金	327,678
		327,678
	固定資産合計	6,298,281
	資 産 合 計	19,478,225

科 目		金 額	
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期借入金	(個人より)	4,700,000	
	(静岡市民共同発電所より)	1,650,000	
	(個人より)	1,650,000	
	(地域交流会)	10,000	8,010,000
未払費用			
	事務用品	6,600	
	地域交流会費用	144,871	
	未払給料	101,000	252,471
前受金	2021年度以降の会費	477,000	477,000
仮受金	グリーン電力入金 未処理	92,578	
	振込資金(再振込み)	177,724	270,302
預り金	給与源泉税	119,037	
	報酬源泉税	8,445	
	住民税	44,770	
	雇用保険料	7,401	
	社会保険料	64,369	
	その他(弁護士顧問料)	100,000	
	その他	130,000	474,022
証書預り金(PV-Green)		5,153,062	5,153,062
基金預り金(PV-Green)		2,699,710	2,699,710
流動負債合計			17,336,567
2. 固定負債			
長期借入金	(静岡市民共同発電所への出資金)	1,160,000	1,160,000
固定負債合計			1,160,000
負債合計			18,496,567

監査報告


特定非営利活動法人 太陽光発電所ネットワークの令和2年度収支決算について、収支決算書に基づき関係帳簿および証票書類を監査した結果、適正かつ正確に処理されていることを認めます。

以上

《 監査年月日 》

令和 3 年 6 月 28 日

《 監事 》

氏名 吉 永 光 伸 

氏名 梅澤 耕 一 郎 

3号議案 2021年度活動方針（案）

2020年の暮れより政府は、「2050年カーボンニュートラル」「2030年の再エネ電源比率30%以上」「2030年の温室効果ガス2013年度比46%削減」などの方針を示していますが、待ったなしの地球温暖化防止対策に対して実効性を欠いており、さらに地球全体が2年越しのコロナ対応に追われる状況の今、実体を伴った再エネ普及が強く求められています。市民であり、消費者であり、再エネ所長（太陽光発電事業者）でもあるプロシューマの私たちは、これまでの実践を通して、その社会的役割を自覚し、持続可能な社会づくりの実現に向けて、継続して活動していきます。

（1）「グリーン」プロシューマの特色を活かした再エネ事業と普及活動の定着を

再エネの主力電源化は付随的で補完的な役割から自立した地域（エネルギー）社会づくりを先導し、実体化する段階となっています。

- ① COVID-19の流行でソーシャルディスタンスがニューノーマルとなりつつあり、会員同士が会って連携することが困難になりましたが、一方、デジタル技術の進展で、交流の手段を安価に獲得できる時代になりました。今期はこのような状況を最大限活用し、会員間で情報やPV関連の部材、サービスを交換・販売できる取引交流の場である「PVモール（仮称）」を開設します。このなかでは太陽光発電を活用した農産物など、環境価値を含んだモノの取引なども積極的に行います。
- ② FIT制度により再生可能エネルギーの量導入は進みましたが、多くの問題点が顕在化してきています。このまま放置すると適切な太陽光発電システムの普及の阻害要因となりかねないことから、PV-Netの会員がプロシューマとして活動できるよう、今期は以下の対応・活動をしていきます。
 - (a) 住宅用PVにおいては、メンテナンスフリーを語った初期の虚偽的な販促施策や、危険な高所設置に伴い点検費用が高いなどの理由により、性能だけでなく安全の面でも問題を抱えたまま、メンテナンスの放置状態が続いています。PVに関するトラブルを自己や地域で防止するという意味でも、昨年度に続き、セルフメンテナンス事業を積極的に進めています。
 - (b) PVによる火災の危険性は今後さらに問題となると見込まれるため、今のうちに対策を取る必要があると考えています。その一環として、パネル1枚ごとの不具合監視や発電停止が可能なマイクロインバータ等を活用した事業を進め、広く安全で身近なPVの普及を進めています。
 - (c) 環境破壊等を引き起こすメガソーラー問題や、住民の生活を侵害する光害問題の解決に、コミュニティパワー三原則等をもとに積極的に対応していきます。
- ③ 20年前後を超えて寿命を迎えたケースや、世代交代による継承の問題により、PVのリプレイス（付け替え）はすでに始まっています。PVモールを活用したり、リユース・リサイクル事業者、関係機関と協力することで、太陽光パネルの再利用を推進していきます。

（２）再エネ（PV）自家消費時代への対処

FIT 制度の縮小、終焉は PV プロシューマの売電事業の転換を余儀なくされています。今後、電気料金は上昇し、30 円/kWh 前後も確実とされている一方で、すでに再エネの売電価格は 10 円/kWh 以下となっており、PV 発電の電力を自家消費に充てる必然性が出てきています。自家消費率を上げるためには「蓄電池の低価格化と省エネ化」は必須となり、以下の対応・活動をしていきます。

- ① 会員の生活を守れるよう、蓄電池を利用した自家消費システムの開発・検討を進めていきます。
- ② PV プロシューマの経験実績を活かし、今後の再エネ・PV 普及の各種調査、実践活動を、地域交流会・会員とともに専門化して対応していきます。
- ③ 地産地消型の PV 普及および災害対策としての再エネ活用の制度化、事故対応の啓発を、自治体や各種団体とともに進めます。

（３）地球温暖化防止に向けた協業の検討

待ったなしの地球温暖化に対して迅速な対応を行い、改善を図ることは重要なことですが、PV-Net 単体では困難なことも数多くあります。このため今期は、これまでよりもさらに研究者・技術者・団体・企業と連携・協業が推進できるよう、以下の活動をしていきます。

- ① 再エネ普及に寄与する研究者や技術者との連携協力で、調査研究室をベースに実態の伴った再エネ普及に寄与する活動を進めていきます。
- ② カーボンニュートラル（CO2 排出量ゼロ）実現に向けて、多くの団体と協力し、原発再稼働防止なども含めた政策提言の運動を、地域より積極的に進めます。
- ③ グリーン電力証書事業の実績を活かし、時代に合った環境価値活用取引を再構築し、PV プロシューマと RE100 企業や ESG 投資のニーズに合致した事業を、関連企業・団体との協同体制で進めていきます。

（４）財政基盤の強化

PV-Net の強みと中立性を活かした事業体としての協同組合（的）組織の新設・実現を検討して対応していきます。

- ① 事業の連携等により賛助会員の拡大を目指します。
- ② 認定 NPO 法人を活用した寄付の増大と定着化を図ります。
- ③ プロシューマの特質を活かし、地域の自立に貢献する目的の助成金獲得を目指します。

(5) 理事会と地域の連携による地域交流会活動の充実

- ① 東北・関東・中部・関西、それぞれが主催する（ホストとなる）拡大世話人会議の開催と、交流会の未組織地域の連絡体制の構築
- ② データベース（会員データ、発電データ）を活用した地域会員交流の充実
- ③ 世話人全体会議の開催（年6回）を通じて、地域会員との連携や交流の充実を図る
- ④ 地域の自治体や関係団体との連携

(6) 事務局機能の強化

- ① クラウド会計の導入による、地域会計との一元管理化・効率化
- ② 情報発信力の強化（ウェブサイトコンテンツの拡充・発信、会員向け情報の充実化）
- ③ 財政と見合った人員補充

2021 年度各地域交流会活動計画

人の集まりを前提とした活動や、遠方に赴いての活動が再開できるようになるまでは、ある程度の時間がかかることが想定されます。今後もコロナが収束と拡大を繰り返していくと想定した場合、感染拡大期にはオンラインでのイベントや企画検討を行いつつ、収束期にリアルでのイベントや交流を進めることも、コロナ禍での新たな地域活動のあり方の 1 つになるかもしれません。

東北 6 県地域交流会

東北 6 県地域交流会という名前にふさわしい交流に取り組みたい。既存の会員の状況を把握して交流につなげていき、新規会員の入会が増えるような取り組みと合わせて実施したい。広い「東北 6 県」。つながるには、リモートでのメーリングリスト (ML)、Facebook、Zoom などのオンライン活用から始めます。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	・ 東北 6 県全体リモート交流の推進 ・ 会員の状況把握	情報ネットワークで地域の課題を拾い上げ理事会につなぐ	・ 交流会を 4 回以上 ・ 全会員へメール発信	6 県ネットワークへの ML、Zoom の活用／個人宛メール				(5) 理事会と地域連携
2	会員への情報提供	マイクロインバーターやバッテリーなどの活用 メンテナンスなどの課題解決	情報発信 相談受付	情報提供／相談受付				(1) 再エネ事業と普及活動の定着 (2) 自家消費時代への対処
3	PV-Net 発プロジェクトの 横展開	各プロジェクトやイベントなどへの参加。実働で結果を出す	参加 1 名以上、実働 1 件以上	通年				(3) 地球温暖化防止に向けた協業 (4) 財政基盤強化
4	・ 地域活動の強化 ・ 活動全体を通じて新規会員の獲得声かけ	自立した会員を増やすことと各県の体制づくりで全体の底上げを図る	各県から理事・世話人選出	青森 山形	宮城 福島	秋田 岩手	フォロー	(5) 理事会と地域連携

茨城地域交流会

把握できる PV-Net の情報を会員に提供することに努める。「会員からの意見、情報などを適宜集め、まとめて会員にメール、文書で返す」という形の交流を年間通して行う。これにより、茨城地域の交流の基礎作りをする。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	情報提供	茨城会員との交流	—	通年				(5) 地域交流会活動の充実
2	会員交流の広場 (仮)	茨城会員との交流	—	8月	11月	2月	5月	(5) 地域交流会活動の充実

群馬地域交流会

新型コロナウイルス感染症拡大の確固たる終息が見いだせない現時点においては、感染拡大のリスクを負わない形での会員間交流を模索します。具体的にはネット利用を基盤に考えていますが、ネット利用環境の整わない会員へのサポートにも努めます。そしてワクチン接種率の進捗状況を勘案し、リアルでの活動再開を検討してゆきます。

千葉地域交流会

太陽光発電の発電量分析委託事業は、今後も設備が増える見込みのため収入増が期待できる。講師派遣は機会があれば積極的に要請を受け、地域収入に充てていきたい。卒 FIT セミナーは開催要請があれば対応していく方針。高齢者へのワクチン接種が完了すれば、リアル世話人会の開催も可能になると考えている。

No.	2021年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月~8月	9月~11月	12月~2月	3月~5月	
1	世話人会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 情報交換/共有 Zoom 会議の導入 	2回 開催/年	通年				(5) 地域交流会 活動の充実
2	自然エネルギーを広める ネットワークちば定例会	<ul style="list-style-type: none"> 定例会へ参加 情報交換/共有 他団体との連携 	12回参加 イベント 共催	通年				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
3	市民エネルギーちば 株式会社から業務委託	<ul style="list-style-type: none"> ソーラーシェアリング発電所の 発電量分析/報告 知見を得る 	15 発電 所分析	通年				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
4	イベント出展	<ul style="list-style-type: none"> エコメッセちばオンライン 出展 (動画配信) 団体紹介 	1 回出展 /年		10月			(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
5	セミナー開催	<ul style="list-style-type: none"> 卒 FIT 処方せん 再エネ/省エネ全般 		通年				(2) 再エネ自家 消費時代への対処

埼玉地域交流会

2020 年度に引き、県内各種団体とコラボした環境イベントに参加し、省エネと環境問題対応行動が必要であることを子どもたちに気付いてもらう活動を実施する。また会員には引き続き、卒 FIT 後の相談と、自主点検の実施の提案および情報発信を行っていく (全ての活動はコロナウイルス活動規制が解除されたのちに具体化を考える)。

No.	2021年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月~8月	9月~11月	12月~2月	3月~5月	
1	埼玉地域フォーラム	悪化が進む気候変動問題の最新動向。2020 年以降の会員の情報交換共有	年 1 回 開催			年度後半を予定		(2) 再エネ自家 消費時代への対処 (5) 地域交流会活 動の充実

2	見学会 「見学場所を計画中」	太陽光発電などを含めた エネルギー効率の啓発	年1回 以上			年度後半を予定	(2) 再エネ自家消費時代への対処 (5) 地域交流会活動の充実
3	独立型 PV 組立講座 ワークショップ	PV の普及	1回以上			年数か所を予定	(2) 再エネ自家消費時代への対処
4	自治体等のイベント参加	県・市町村・環境団体主催 のイベント参加による PV- Net 活動の周知、会員拡大	2イベント に参加			通年	(1) グリーンプロシ ューマの特色を活か した再エネ事業
5	児童・園児・父母対象の 環境学習開催	・ 自然エネルギーの普及啓発 ・ 将来への投資	県内 数か所			随時	(2) 再エネ自家消費時代への対処
6	・ 市民発電所の維持管理 ・ スイッチング推進 ・ 発電量の計測および健康 診断による発電量チェック ・ 新規発電所の設置	・ PV 設備のメンテナンス ・ パワーシフトの推進 ・ PV の普及・啓発	新設 1か所			随時	(1) グリーンプロシ ューマの特色を活か した再エネ事業
7	世話人会の開催	地域交流会の運営 (Zoom 開催中心)	定例開催 (第一土曜)			通年	(5) 地域交流会活動の充実
8	NEWS (さいたま通 信) 刊行継続と ホームページの運用	・ 発電量の近隣比較の広報と PV 健康診断への入力促進 ・ イベント等を地域会員に知ら せ、参加につなげる	2ヵ月毎			通年	(2) 再エネ自家消費時代への対処 (5) 地域交流会活動の充実

東京地域交流会

オンライン環境を活用し、SDGs 系市民団体や RE 事業者との連携による啓発活動や再エネ普及事業を、モデル地域の武蔵野・三鷹だけでなく都内全体で進める。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	温暖化啓発	気候危機の理解者を増やす ➢ 政策提言賛同者	【講演会】 全国 1000 人 学習会 300 人	8.21 講演会／上映会&温暖化講座=月2回 オンラインは全国。都内の地域 NPO、パル連携				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
2	再エネ普及	【住宅ソーラー&蓄電池普及】 再エネ新電力へスイッチ。収 益事業として	設置 5人	オンライン講座&設置サポートは事務局事業 で。地域 NPO との共催も検討				(2) 再エネ自家消費時代への対処 (4) 財政基盤の 強化
3	地域連携の促進	多摩エリアを中心に、気候・再エ ネ～SDGs 関連市民団体の連 携促進 (啓発～政策提言)	年2回 交流会 組織検討	交流会: 8月、2月/連携検討				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
4	政策提言	「あと4年」連携 (事務局) ➢ I 基改定 都内地域拡大: 350・FFF 三鷹: 気候市民会議	エネ基 陳情 10 地域	・ 市議会陳情9月? パブメ10月 ・ 都内の再エネ NPO 等への拡大				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業

5	イベント出展	コロナ終息すれば、 オンラインイベントもチェック	検討中					(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
6	再エネ CO2 削減価値 計測モニター開発支援	計測器の取り付け支援。実 証実験をスムーズに開始す る	会員・ 非会員 10名	モニター募集、 設置支援				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
7	ペランダ発電工作教室	講師体制、啓発組み込み など抜本検討	検討中					(3) 地球温暖化 防止に向けた協業

神奈川地域交流会

コロナ対策のワクチン接種が進めば、活動がより活発化することを望む。

- ・ ニュースター「PV かながわ」を毎月継続発行し、会員への情報提供を行う
- ・ 年数回ワークショップ「出前発電所を作ろう！」の開催
- ・ YES（エコハマ・エコ・スクール）と共同で、出前授業を実施（8月末まではイベント中止が多い）
- ・ 地域ホームページの運用（<http://blog.livedoor.jp/pvkanagawa/>）

No.	2021年度の 活動計画	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、 状況)	実施スケジュール／四半期評価				団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム神奈川の 開催を検討	卒 FIT 対応の報告や FIT 後の運用情報を会員間で 交換	—				3/27 (仮)	(2) 再エネ自家消 費時代への対処 (5) 地域交流会活 動の充実
2	ニュースター「PV かなが わ」を毎月発行し、メール にて配信、Web に公開	タイムリーな話題や、毎月の 発電量の近隣比較情報な ど、会員への情報提供を行 う	年 12 回	通年				(5) 地域交流会 活動の充実
3	ワークショップ「出前発電 所を作ろう！」の開催	会場を確保しながら、会員、 一般の希望者を募集して開 催	年数回		9/19 10/31	未定	未定	(2) 再エネ自家 消費時代への対処
4	地域のイベントに参加	ソーラーパットや手回し発電 機を活用し、青少年への環 境教育を目的に出展	—	10/17 2021 あつぎ環境フェア(あつぎ中央公園)出展				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
5	出前授業を実施	YES（エコハマ・エコ・スクー ル）と共同で環境教育を実 施	—	未定				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
6	地域ホームページの運用 http://blog.livedoor.jp/ pvkanagawa	PV-Net 神奈川の活動紹介と会 員への情報発信、コメントを活用 した双方向通信の検討	随時	通年				(5) 地域交流会 活動の充実
7	見学会開催の検討	近隣地区に拘らず環境関連設備 を見学し、最新の知識を得る。見 学会ではなく、個人の見学をニュー ススターで紹介する形態を検討	—	未定				(5) 地域交流会 活動の充実

8	世話人会の開催	世話人間の情報交換、地域交流会活動の企画立案および実施	随時	通年				(5) 地域交流会活動の充実

山梨地域交流会

2021年度は、コロナ禍でどれだけ有意義な活動ができるか、活動のあり方を考えていきたいと思います。

No.	2021年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	ライトダウンやまなしへの協力	・ 消灯の呼びかけ ・ PV-Green の利用普及	年1回のライトダウン開催		11/6			(3) 地球温暖化防止に向けた協業
2	PV-Green を活用したリッカーJ2ヴァンフォーレ甲府のホームゲーム開催をはじめとするPV-Green の普及活動	一般県民に対し、PV や PV-Green のさらなる普及を図る活動の展開	年1回以上		9～12月			(3) 地球温暖化防止に向けた協業
3	「広がれ！小瀬エコスタジアム実行委員会」に協力し、小瀬エコブース担当	子どもをはじめとする市民に太陽光発電の啓発活動の展開	年1回	新型コロナウイルスが落ち着いてから実施予定				(3) 地球温暖化防止に向けた協業
4	役員会の開催	活動の展開	—				3～5月	(5) 地域交流会活動の充実
5	・ 会員の拡大 ・ 学習会の開催	PV のさらなる普及を他団体とも協力して進める	年間を通じて	通年				(1) グリーンプロシユーマの特色を活かした再エネ事業

静岡地域交流会

①オンラインを活用した世話人会の定期開催 ②EV06 設置を通じた会員との情報共有 ③掛川新電力との連携 ④マイクローインバータの普及。以上を静岡地域の方針として活動します。

No.	2021年度の地域での活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	フォーラム・セミナーの開催 (最低年1回)	・ 新たな地域会員の獲得による会の活性化 ・ 掛川市におけるグリーンファイナンスの取り組み	会員増10名					(5) 地域交流会活動の充実
2	見学会の実施	関連施設や技術を体感し理解を深め今後の活動の質を向上させる	実施1回	未定				(5) 地域交流会活動の充実
3	行政・自治体活動 社会活動への参画	・ 活動内容の紹介と市民の環境意識の向上 ・ 関連周辺視野の拡大	参画6回		3件	2件		(3) 地球温暖化防止に向けた協業の検討

4	市民共同発電所 運営管理、建設	<ul style="list-style-type: none"> 会の活動費の確保 管理・設備保守、看板付け替えなど 	—					(4) 財政基盤の強化
5	保守メンテナンスを通じた 会員へのサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> 地域会員の結束強化 会員の保守意識の向上 保守技術の向上 マイクロインバーターおよびバッテリーの普及 EV06 設置募集 	—	通年				(1) G プロシューマの特色を活かした再エネ事業 (2) 再エネ自家消費時代への対処 (5) 地域交流会活動の充実
6	世話人会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 地域の結束強化、地域活動の活性化 世話人 18 名体制と拡充 東・中・西での開催 	Zoom 会議 毎月第 2 水曜開催予定	通年				(5) 地域交流会活動の充実

中部地域交流会

世界は「経済成長路線」から、「持続可能」な 21 世紀を目指そうとしています。私たち中部世話人会は「つながりあう中部」を 21 年度の方針とし、運動を組織化したいと考えています。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	世話人会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 世話人の拡大 会員間交流、関係団体等との連携 	毎月開催	3回	3回	3回	3回	(3) 地球温暖化防止に向けた協業の検討 (5) 地域交流会活動の充実
2	市民共同発電所 建設の推進・検討	持続可能な暮らしづくりの一步となる、会員による発電所建設議論の共有化	毎月報告	3回	3回	3回	3回	(5) 地域交流会活動の充実
3	MY パワー運動との 連携強化を図る	見学・交流を通じて、「自分だけの利益」から「みんなの利益」の実践を現地で学ぶ	年 1 回		10/18			(3) 地球温暖化防止に向けた協業の検討

京都地域交流会

今年度は、当初は他の支部や NPO 法人へも声掛けしてイベントを盛り上げ、最終的には支部会に 10 人以上の参加者を得るようにする。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	参画人員を増やすため、京都のみから、関西（滋賀・京都・大阪・奈良）へと地域を広げる	地域を広げ、グループ LINE も増やし、輪を大きくする	—	通年随時				(5) 地域交流会活動の充実

2	勉強会開催	情報交換・交流の場の提供。自己託送・系統安定化のための太陽光を模索する【テーマ案】 ・昨今の電気の動向 ・ソーラーエッジを導入してみて	1回 /年	通年随時				(3) 地球温暖化防止に向けた協業 (5) 地域交流会活動の充実
3	保守点検・新設・蓄電池/EV 購入相談受付		相談したいと思われるだけの信頼を得る	通年随時				(2) 再エネ自家消費時代への対処

兵庫地域交流会

【地球温暖化防止啓発活動】

- ①六甲川水車新田小水力発電設備活用構想の具体化と実践
②再生可能エネルギー起源電力の地域内での地産地消促進 ③地域貢献

【六甲川水車新田小水力発電事業の推進】

- ①安定した発電ができるように、保守メンテナンス体制を確立する ②収益が出る事業になるようにする

No.	2021年度の活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール/四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	1) 県民向けセミナー、 フォーラムを開催 2) 環境イベントへの 出展	再生可能エネルギーの普及	参加者 80名 以上	竣工式& 講演会	・セミナー9月 ・エコフェスティ バル10月	フォーラム 12月		(1) G プロシユーマの 特色を活かした再エネ 事業 (3) 地球温暖化防止 に向けた協業
2	神戸市灘区水車新田に おける小水力発電事業	自ら再生可能エネルギーの 創エネを実践する	安定稼働 収益事業化	通年				(2) 再エネ自家消 費時代への対処 (4) 財政基盤の強 化
3	小水力発電設備設置エリア の里山林整備と活用	・ 環境に関する「学びの 場」「憩いの場」作り ・ 関連団体との協業	近隣住民の 参加イベント 毎月開催	通年				(3) 地球温暖化 防止に向けた協業
4	太陽光発電の発電に 関する情報提供	地域会員の会員 満足度アップ	メール、 FBでの 情報提供	通年				(2) 再エネ自家消 費時代への対処 (5) 地域交流会活 動の充実
5	世話人会の開催	地域活動の活性化	毎月開催	通年				(5) 地域交流会 活動の充実

宮崎地域交流会

コロナの蔓延状況にもよるが、活動については HP 等を活用し、また世話人会については確実な形で、実施を目指したい。

No.	2021 年度の 活動内容	活動の目的 (今年、目指す成果や状態)	目標 (数値、状況)	実施スケジュール／四半期評価				(参考) 団体目標・ 方針との関連
				6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月	
1	セミナーの開催 (年4回)	家庭でできる O&M の方法について講習会の開催や不具合案件の対応や、災害対応等諸問題に対応する	4回	通年 (四半期ごとに1回)				(1) グリーンプロシユーマの特色を活かした再エネ事業
2	世話人会の開催	—	年2回	通年				(5) 地域交流会活動の充実

認定 NPO 法人 太陽光発電所ネットワーク

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-10 湯島ビル 602

TEL : 03-5805-3577 FAX : 03-5805-3588

www.greenenergy.jp

4号議案 2021年度予算（案）

認定NPO法人太陽光発電所ネットワーク

I 収入の部

経常収益		予算	予算内訳	2020年度実績
1. 会費		3,500,000		2,988,000
	正会員		3,000,000	
	賛助会員		500,000	
2. 寄付金		2,200,000		2,155,001
3. 助成金・補助金		3,200,000		926,000
	民間助成金		1,600,000	
	政府助成金		1,600,000	
4. 自主事業		16,000,000		9,417,531
	PV-Green		2,000,000	
	市民共同発電所運営		3,000,000	
	市民ファンドサポートセンター		1,000,000	
	PVメンテナンス		5,000,000	
	マイクロインバーター販売		5,000,000	
5. 委託事業		4,000,000		5,296,000
6. その他収益		1,100,000		5,005,344
	普及啓発		1,000,000	
	雑収益		100,000	
収入合計（A）		30,000,000		25,787,876

II 支出の部

経常支出		予算	予算内訳	2020年度実績
1. 事業費				
(1) 人件費		5,000,000		6,614,224
	給与手当		4,000,000	
	有償ボランティア費		300,000	
	法定福利費		700,000	
(2) 直接経費		14,400,000		6,525,736
	PV-Green		1,500,000	
	市民ファンドサポートセンター		1,200,000	
	PVメンテナンス		2,000,000	
	マイクロインバーター販売		4,000,000	
	委託事業		1,000,000	
	普及啓発		2,000,000	
	地域活動費		2,000,000	
	その他		200,000	
	減価償却		500,000	
(3) 間接経費 (事務所経費)		2,700,000		4,570,538
事業費合計		22,100,000		17,710,498
2. 管理費				
(1) 人件費		2,350,000		2,849,808
	給与手当		1,800,000	
	有償ボランティア費		150,000	
	法定福利費		300,000	
	福利厚生費		100,000	
(2) 事務所経費		1,620,000		2,065,256
	通信費		100,000	
	広告宣伝費		200,000	
	事務用品等・備品費・修繕費		50,000	
	賃借料・リース料		200,000	
	地代家賃・光熱費		500,000	
	支払手数料		170,000	
	雑費・諸会費		50,000	
	減価償却		250,000	
	租税公課		50,000	
	保険料		50,000	
(3) その他経費		600,000		228,314
	旅費交通費		300,000	
	会議費		300,000	
管理費合計		4,570,000		5,143,378
3. その他支出		3,000,000		
	借入金返済			
支出合計（B）		29,670,000		22,853,876
収支差額（A）－（B）		330,000		

●5号議案 役員改選(案)

(1)理事候補者

	氏名	新任・再任	推薦枠	所属	旧役職
1	都筑 建	再任	三役	事務局	代表理事
2	高柳良大	再任	三役	事務局	副代表理事
3	三石博行	再任	三役	関西(滋賀)	副代表理事
4	加藤 聡	再任	事務局	事務局	事務局次長
5	田中 稔	再任	事務局	事務局/東京	
6	菅原佐喜雄	再任	地域	東北(岩手)	
7	佐藤次雄	再任	地域	神奈川	
8	伊藤博文	再任	地域	静岡	
9	武田善明	再任	地域	中部(愛知)	
10	古市恵三	再任	地域	京都	
11	安原克彦	再任	地域	関西(和歌山)	
12	岩永 剛	新任	地域	東北(青森)	
13	秋葉慶次	新任	地域	東北(山形)	
14	佐藤博士	新任	地域	群馬	
15	駒崎 茂	新任	地域	埼玉	
16	大庭正義	新任	地域	静岡	
17	植田哲哉	新任	地域	中部(愛知)	
18	藤敦正幸	新任	地域	関西(滋賀)	

※再任・新任ごとに役職および地域順

(2)監事候補者

	氏名	新任・再任	所属
1	吉永光伸	再任	栃木
2	梅澤耕一郎	再任	群馬

(3)オブザーバー/アドバイザー

	氏名	所属
1	鈴木宣直	茨城
2	桑原紀仁	埼玉
3	國井範彰	埼玉
4	林 彰一	千葉
5	夏目和久	静岡
6	松井康哲	中部(愛知)
7	伊藤伸一	香川

(4)退任役員

	氏名	所属
1	鈴木宣直	茨城
2	桑原紀仁	埼玉
3	宗貞貴洋	九州(福岡)